

広島都市圏

伝統の「宮島彫」体験 宮島小

世界遺産の島・宮島(廿日市市)で江戸時代から続く伝統工芸品「宮島彫」の体験会が13日、地元の宮島



盆にモミジの絵を彫る児童

小であった。8月に78歳で亡くなった宮島彫の伝統工芸士、広川和男さんに師事した大野浩さん(34)が講師を務め、5年生14人に宮島彫の魅力を伝えた。

大野さんは、宮島の人が生計を立てるため、宮島彫をはじめとした宮島細工と呼ばれる4種類の工芸品作りが始まったと説明。「今も続く観光資源の一つとして知ってほしい」と話した。児童は直径約16センチの木の盆にカーボン紙でモミジの葉の絵を写し、彫刻刀で輪

郭を彫る「筋彫り」に挑戦。慎重に彫刻刀で彫り進め、彫った部分に赤や青などの色を塗って完成させた。高野杏さん(10)は「いい作品ができて満足。家族に自慢したい」と喜んでいった。体験会は、地元の産業を知ってほしいと約20年前に開始。宮島細工協同組合の理事長だった広川さんが長年講師を務めていた。(永井友浩)

5年生 令和3年10月13日(水) 伝統の「宮島彫り」学習

大野先生をお招きして

